

宮本常一・旅の足跡 4

昭和33年～39年（一九五八～六四）

51
〜
56
歳

離島と生活改善の旅

膨大な著作の中から瀬戸内海に関するものを拾い出してみると、12冊の単行本がある。こまかく拾えばまだあるし、論文や紀行文の類を加えるといくらかになるか見当もつかない。

瀬戸内はまさに身近かなものであり、瀬戸内の人びととの交流は広く、そして深かった。ふるさとの「海の生活誌」から出発したといつてよい宮本学の行きつく先は「海からみた口本」であった。そしてその海の中心は瀬戸内でなければならなかった。

(参考・同時代の証言)

[illegible]

東京都府中市（家を購入）										住所	
										年	月
22	昭和	37	8	鳥羽市国崎	(唐)						
23	昭和	37	8	福岡県相ノ島							
24	昭和	37	9	山口県川上村							
25	昭和	37	10	佐賀・天草離島調査							
26	昭和	37	11	熊本・大分離島調査							
27	昭和	37	11	佐渡講演・調査							
28	昭和	38	7	長野県下伊那調査							
29	昭和	38	7	東京都新島調査							
30	昭和	38	8	下北半島調査							
31	昭和	38	11	長崎県対馬調査 (離島振興関連)							
32	昭和	38	12	新潟県佐渡							
33	昭和	39	3	新潟県佐渡							
34	昭和	39	5	鹿児島・雲仙調査							
35	昭和	39	5	五島列島調査							
36	昭和	39	6	佐渡赤泊村 (経済実態調査)							
37	昭和	39	6	茨城県土浦							
38	昭和	39	7	下北半島 (九学会連合)							
39	昭和	39	8	北海道離島調査							
40	昭和	39	8	佐渡赤泊村他							
41	昭和	39	10	佐賀・大分調査							
42	昭和	40	1	新潟県佐渡							

凡 例

- 調査・講演など旅した地点
○ 上記で特定できない地点
— 旅の経路
— 長距離移動及び中継地が不明な経路
②(3) その地点を訪れた回数
○ さらに詳細な調査地点数
● 都道府県名や市町村名以外の記載がないところ
○ 調査・講演の年月
(丸数字は年表と符号)

